

七



I-0039

0111

歐亞局

一課 七

昭和三十二年

昭和三十三年貳月拾五日接受



普通公第三一號

昭和十三年一月二十九日

在ハバロフスク

總領事 島田



外務大臣 廣田 弘毅 殿

「ニコラエフスク」市ニ於ケル極光出現ニ關シ報告ノ件

在ハバロフスク日本總領事館

葉處弁
又印名一送附
字名多口ハ得まう
後取

分類 I. 3. 0. 6

一月二十七日附當地機關紙「チーホ、オケアンスカヤ、ズヴエズダ」ハ一月二十二日午後七時三十五分（哈府時間節チ日本標準時間ヨリ一時間早シ）黒龍江下流「ニコラエフスク」市ノ北方地平線上ニ淡灰色ノ輪現ハレ其ノ上部ニ西北方ニ根ヲ有シ東北方ニ向ヒテ擴カリツツアル點真紅ノ帶アリテコノ帶ハ恰モ遠望ノ夕映ノ如クニ見ヘタルカ石一旦弱クナサタル後東北方ニ真紅色ヲ帶ヒタル第二ノ根現ハレ之ト共ニ右二個ノ根ヲ連絡シ且北方水平線上ニアル淡色ノ輪ノ上部ニ更ニ第二ノ輪ヲ生シ右ハ東ヨリ西へ漸次移動シタル垂直ナル光線ノ帶ヲ有シ居タル由ニテ「ニコラエフスク」市測候所技師「セナートロフ」ノ言ニ依レハ斯ル極光出現ノ現象ハ頗ル稀有ノコトナル旨ノ記事ヲ掲載シ居レリ

在ハバロフスク日本總領事館

I-0039

0172

右報告申進ス 關係ノ向ヘ可然御傳達相成様致度シ

在ハバロフスク日本總領事館

I-0039

0173